

令和2年3月5日（木）喬木村議会は喬木中学校を訪問し、令和2年1月28日に喬木中学校3年生が総合的な学習の授業を活用して議会に提出された要請書に陳情審査報告書として提出しました。



令和2年3月5日

喬木中学校3年生生徒の皆様

喬木村議会議長 下岡 幸文



## 陳 情 審 査 報 告 書

令和2年1月28日議会に提出された陳情を委員会審査した結果、次のとおり決定したので報告します。

### 記

事件 番号	件 名	審査結果	提出された要請に対する 今後の議会の方針について
1-1 総務	【ゆるキャラ】 ゆるキャラの製作につ いて	趣旨採択	くりん草をもっと有名にし、村の活性化に繋げるという提案を頂きました。その為に、くりん草の更なるPR効果を狙ったゆるキャラ製作という提案には賛同します。また、キャラクターデザインを募集するなど精力的に活動されたことに敬意を表します。しかしながら、製作には費用面を含め、制作後の運用の方法など課題が多いと感じます。今後詳細を詰めていく中で、公益性がどこまで求められるか、事業主体はどこで、どの様な目的で、誰が責任を持って取り組めるかが明確になってくれば、村との関わりも見えてきて事業実現につながるものと考えます。
1-2 総務	【ゆるキャラ】 ボランティアの人手確 保について	趣旨採択	くりん草園の維持管理の人手不足の解消の為にボランティアとしての人材確保の提案と受け止めました。この課題につきましては、くりん草園の維持管理を続けてきた愛好会の方々の高齢化もあり、維持管理が厳しい状況になってきたことは理解しています。今後の維持存続のために、愛好会を始め、地区の皆さんとどの様な方法が良いか検討する必要があると感じます。

<p>1-3 総務</p>	<p>【ゆるキャラ】 駐車場の拡大について</p>	<p>趣旨採択</p>	<p>くりん草園に訪れて頂く人の増加を目指して、駐車場の拡大という提案を頂きました。</p> <p>山間の限られた状況の中で駐車場を確保していくことは、現状では今以上のことは難しいと捉えています。開園中は、村費において警備員を配置するなど特例処置も執られています。近隣地域に大きな駐車場を整備することも考えられますが、開園時期が短いことや公益性を考慮すると、本事業遂行には課題が多いものと感じます。現行でも充分機能しているものと考えられますが、今後、来園者の増加を確認していきながら、検討していく課題だと捉えています。</p>
<p>2-1 総務</p>	<p>【イチゴスイーツ販売について】 喬木限定スイーツの提案</p>	<p>採 択</p>	<p>喬木村の特産であるいちごを使った、喬木村限定のスイーツの開発の提案を頂きました。</p> <p>現状でも、NPO 法人たかぎを中心に商品開発に取り組まれており、いくつかの商品が販売されています。毎回ヒット商品を生んでいくことは厳しいことと捉えており、多くの皆さんのアイデアを頂く中で、今後も商品開発に繋げられるような活動が大切だと感じています。現在の取り組みの継続と、新しい商品が生み出されるように、NPO 法人たかぎに提案して参ります。</p>
<p>2-2 総務</p>	<p>【イチゴスイーツ販売について】 キッチンスペースの確保</p>	<p>採 択</p>	<p>スイーツを製造し販売する場所を確保するという提案を頂きました。</p> <p>現在、交流センターの厨房は、営業許可をとり、住民が登録制により営業を行なっています。そうした中で、パティシエの皆さんが厨房を利用し販売を展開することは充分可能であり、活性化にも大いに貢献できるものと考えます。既に、サンドイッチの製造販売を手掛けるサンディサンドさんが利用しており、リピーターのお客さんも増加傾向です。今後そうした皆さんが増えて、交流センターが村の中心として活気づいていくことに期待します。</p>
<p>2-3 総務</p>	<p>【イチゴスイーツ販売について】 スイーツ製作のためのイチゴの提供について</p>	<p>採 択</p>	<p>スイーツの原料となるいちごの数量確保の提案を頂きました。</p> <p>村の特産につながる商品開発のための原料提供には、生産農家の積極的な協力が得られると思います。今後、大島地区において夏取りイチゴの生産も計画されている</p>

			ることから、周年の原料供給が可能になるものと捉えています。
3-1 社文	【椋鳩十記念イベントについて】 記念イベントの開催	趣旨採択	椋先生の記念イベントの開催は面白い提案だと思います。現在行なっているイベントも含め、全国や、世界に発信できる様なイベントが企画出来れば、必ず、村の活性化に寄与するものと感じます。開催する時期や規模、内容について綿密な企画設計を作り上げることが出来れば実現可能だと思います。
3-2 社文	【椋鳩十記念イベントについて】 会場の確保	採 択	社会体育館を含め、村全域を活用するような計画に期待します。
3-3 社文	【椋鳩十記念イベントについて】 イベント周知の方法	採 択	広報手段は多方面に亘り可能なことと捉えています。費用面も含め綿密な計画が必要となります。
4-1 総務	【お土産の宣伝】 ホームページにお土産に関するコーナーの設置	採 択	<p>喬木村のお土産の情報が得られにくいことから、ホームページにお土産のコーナーを設けるようにという提案を頂きました。</p> <p>喬木村に関係したホームページでは、村及びNPO たかぎのホームページがあります。また、ふるさと納税に関係した商品の紹介も行なわれています。村の特産品も含め今後も紹介していくこととなりますが、表示の仕方など良いアイデアがありましたらお寄せお頂ければ幸いです。</p> <p>また、村の特産品の一番の広告塔は、住民の皆さん一人一人の力です。村外へ出かける際には、是非1品お求め頂き紹介頂けると、更なる活性化に繋がると感じます。</p>
4-2 総務	【お土産の宣伝】 ホームページを定期的に更新を	採 択	ホームページの内容の更新が遅い。記事が古い。というご指摘を頂きました。関係機関と調整を図って参ります。
4-3 総務	【お土産の宣伝】 販売場所の拡大	採 択	<p>村の土産品を販売する場所の確保と拡大をという提案を頂きました。</p> <p>交流センターは手狭な状況が続いています。今後周辺開発の中で、事業規模を見据えた中で検討していきたいと思えます。</p>

			<p>アスポでの土産物販売の提案につきましては関係するアスポ運営委員会に繋げて参りたいと思います。</p>
4-4 総務	<p>【観光施設の PR の仕方】 新たな観光パンフレットの作成についてと看板等の設置について</p>	趣旨採択	<p>村民の中にも知られていない観光施設があり、村内外の方に新たなパンフレットの作成配布とインターネットでのアピールにて喬木村に興味を持ってもらうという提案を頂きました。また、村内への進入口に四季折々の村内観光案内の設置と現在の案内看板の点検や改良の提案を頂きました。</p> <p>現在、観光 PR については、産業振興課商工観光係や NPO 法人たかぎを中心に業務を行なっています。ご指摘頂きました、村内案内看板やパンフレットおよびホームページについては今後の更新を含め検討して参ります。</p>
5-1 社文	<p>【ICT 教育】 個人所有のタブレットにした時の補助金について</p>	趣旨採択	<p>現在支給されているタブレットも更新時期を迎えているため、今後個人所有として村の財政負担軽減とし、購入費用の一部負担をお願いしたいという村を思う気持ちに感謝いたします。国では全国の小中学校にタブレット購入の予算を組んでいる所ですが、当村はモデル地区として先行し ICT を活用した教育に取り組んで参りました。個人所有にする場合家庭での負担が発生し多くの問題も生じます。それらの問題にも注視し、セキュリティの問題等々様々な課題も生じるため、現時点では補助金制度での個人所有ではなく教材として皆さんに貸与する事がベターだと判断されます。ただし、家庭でのタブレットでの学習を望む児童生徒に持ち帰る事が出来るような方法は無いかな等、あらゆる方向性を模索する事も求められています。教育委員会と連携を図りながら課題解決に取り組んで参ります。</p>
5-2 社文	<p>【ICT 教育】 継続した ICT 教育支援について</p>	採 択	<p>前段の回答と重なりますが、当村はいち早く ICT 教育の取り組みを積極的に行って参りました、人口減少高齢化を迎える中で、三遠南信線整備やリニア新幹線の開通に向け、またソサイアティ 5.0 の社会を目指すには更なる支援も含めた教育環境整備が求められます。今後も安定的な ICT 教育支援は議会も賛同して進めて参ります。しかし、皆さんはロボットやコンピュータに支配される社会ではなく、人間の知識でよりよい社会を形成</p>

			<p>するためのパーツとして使いこなせる能力を身につけ、将来の喬木村をまた日本を背負って頂けるとありがたいと思います。</p>
5-3 社文	<p>【ICT教育】 ICT支援員の確保</p>	採 択	<p>現在正規職員1名、嘱託職員2名で行っています。新たな取り組みのために必要であれば増員も考えられますが、継続確保が望ましいと思います。</p>
6-1 6-2 社文	<p>【福祉環境問題】 担い手不足の解消について</p>	採 択	<p>福祉施設で中学生が福祉活動を体験し、ボランティア活動を行うことで福祉に興味を持ってもらい、将来の担い手になってもらいたいと考えて提案を頂きました。</p> <p>少子高齢化の加速する中で、現在福祉に携わる方々が不足している現状です。皆さんが小中学生のころから福祉事業を体験して頂き福祉に興味を持って頂けるように、社会福祉協議会や村内の障害者福祉施設等でのボランティア活動に参加できる教育環境の整備と、将来働く場所として福祉施設等の環境整備に取り組んで参りたいと考えます。</p>
6-3 総務	<p>【福祉問題】 高齢者の増加や人口減少問題を解決するための空き家の活用について</p>	趣旨採択	<p>空き家活用等により高齢者福祉住宅への改築などを行い、リニア新幹線や三遠南信自動車道の整備を見据え、また人口減少問題も絡め喬木村の人口減少に歯止めをかけたいとの想いと観光地への集客および民泊住宅への改築など、多面的な提案に感心しました。</p> <p>空き家は、所有者が権利を持っているためまずは譲渡の申し出が無いと改築が出来ない問題と、老朽化した住宅の改築費用が多額になる点など課題が多くあります。その問題が国や県の助成を頂けるならば一歩前に進めるかとも考えます。今後の国県等の動向に注視しながら引き続きこの課題に取り組んで参ります。</p>
6-4 社文	<p>【福祉問題】 地区ごとに高齢者との懇談会を開催する事について</p>	採 択	<p>高齢者の方々との懇談会を各地域で開催し、小中学生も参加し直接現状や意見を聴く中で、(福祉問題を学習する中で)、福祉問題に興味を持ち、将来福祉関連事業に就職したい人を増やしたいとの提案と受け止めました。</p> <p>村では福祉課包括支援係の職員が高齢者の意見要望を、民生児童委員が家庭訪問など行い要望等をお聞きして問題解決に双方が連携して取り組んでおります。</p>

			小中学生も参加できるように提案して参ります。
6-5 社文	【福祉問題】 地域のサロン活動に小中学生が参加する提案について	採 択	<p>各地域で行われているサロン活動では、楽しい仲間作りを目的で高齢者の憩いの場になっています。そこに小中学生が夏休みなど長期休暇を利用して参加しふれ合う事で、福祉問題に意欲的に取り組めるようになり、福祉関連事業への就職人口が増えるのではないかとの提案を感謝と敬意を持って受け止めました。</p> <p>サロン活動では、地域の方々が地域の高齢者を支えています。ボランティア活動参加の皆様には常に敬意の念を抱いています。中学生の皆さんも、将来高齢者を支える立場と支えられる立場を経験する事と思います。この活動への参加のみならず様々な福祉関連事業を今から学んで行く事は有意義なことだと思います。</p>
7-1 総務	【環境】 複合型キャンプ施設の建設	趣旨採択	<p>喬木村が「足を運んでみたいと思える村」になるための提案で、森林浴が行えるカフェと言う発想も斬新だと感じます。</p> <p>キャンプ場設置の課題を場所（土地）と捉え、九十九谷森林公園の空いている場所と言う提案も、森林が整備され遊歩道も有るなど環境的に最適な場所をという提案を頂きました。しかし、残念ながら周辺が保安林という事もあり新たな開発計画は難しいと考えています。</p> <p>しかしながら、若者や村外の方に、魅力を感じてもらえる村とするための一つの方策として、複合型キャンプ施設（森林浴カフェ）などは検討・研究していく必要はあると考えます。</p>
7-2 総務	【環境】 九十九谷森林公園内に一年を通して見られる植物の定植	趣旨採択	<p>九十九谷森林公園内には既に、九輪草やアジサイ、紅葉など多くの植物が植えられており、多くの方に楽しまれています。桜の植樹の提案もあり、園内への様々な種類の植樹は魅力があると感じています。</p> <p>今後も住民の憩いの場として、また喬木村の観光場所としても、魅力ある公園整備にむけて検討をして参ります。</p>
8 総務	【環境】 街灯設置	採 択	<p>村民の安全な移動と防犯対策としての提案で、街灯の設置費用までを調査され、ランニングコストの面からもLEDライトにすべきとの提案と受け止めました。</p>

			<p>現在村内には 700 基弱の街灯が設置され、既に全て LED 化されています。今後も住民から要望（地元要望）があれば随時設置は可能ですが、設置する際には農作物への影響を考慮する必要があります。</p> <p>ご指摘のありました公民館や公園など、公共施設には必要と考えており早急に対応すべきと考えます。</p> <p>併せて、防犯カメラの設置については、「プライバシーより安全が大事」「冬季は暗くなるのが早く小学生などの防犯のためにも必要」など、中学生からの意見は重く受け止め、今後の対応を検討します。</p> <p>尚、今年度は、村内 13カ所へ 3月までに設置が行なわれる予定です。</p>
9-1 総務	<p>【環境】 喬木村にあるすべてのガードレールの点検</p>	採 択	<p>既存のガードレールの不備による危険性の指摘であり、重要と考えます。</p> <p>保守やメンテナンスについては道路管理者（国・県・村）や設置者（個人・企業）が行う事とされていますので、県や村では定期的に確認をし対応をしていますが、引き続き不備の無いよう要請して参ります。</p>
9-2 総務	<p>【環境】 危険な場所の位置を把握し、ガードレールの設置の判断</p>	趣旨採択	<p>山間地における高齢ドライバーの事故への懸念から、危険箇所へのガードレールの設置要望で、実際に危険と感じる箇所を挙げていただきました。</p> <p>今後の高齢化社会における高齢者の安全運転対策は課題であり、安全運転装置への補助、中山間地での高齢者の足の確保なども併せて検討するべきと考えています。</p>
10-1 総務	<p>【生活】 リニアの工場の跡地に大型店を作る</p>	趣旨採択	<p>リニア中央新幹線の開通に合わせ、堰下が「ワークロード」の跡地に大型ショッピングモールを建設することで、喬木村を訪れる人が増えると共に、地元で働く場を提供できるとの提案であり、身近に大型店が出来るとは、村の賑わいにも繋がり、特に地元で働く場を確保することへの提案には注目したいところです。</p> <p>現在、村でも議会でも堰下の跡地利用を検討しています。大型店だけではなく、5,000人収容のアリーナ施設の建設場所としても手を挙げています。他にも展望台のある大きな公園だとか、大学や病院なども案としてあげ</p>



			<p>られます。</p> <p>リニアが開通すれば 1 時間で東京まで行けます。そのような環境で、この村に必要な機能は何かをしっかりと考えていかなければなりません。</p> <p>若い皆さんが村外へ出て、学んだ知識や経験、手にした技術が生かされるような喬木村であるよう、今後も大型店のみならず、様々な可能性を含みながら研究・検討していくことが大切だと考えます。</p>
10-2 総務	<p><b>【生活】</b></p> <p>駅から喬木村(大型店)までバスを出す</p>	趣旨採択	<p>大型店に限らず、今後計画される施設を含めた、喬木村とリニア駅を繋ぐ路線は必要不可欠だと考えます。加えて、近い将来、自動運転のバスの運行が可能になる時代が来ると思われます。</p> <p>そのためには交通網(道路・橋)の整備が重要な事業となると考えています。</p> <p>そこで既存路線だけではない、新たな路線(阿島橋の新設含む)の整備も視野に入れながら今後検討していく必要があると考えています。</p>

提出頂きました各要請書に対しまして、議会として審議し判断した結果は、今回は、「採択」「趣旨採択」として判断させて頂きました。

#### 【用語説明】

採 択：要請書の内容について、納得できるものと判断し事業実現に向けて執行部（行政）に対し提案して参ります。

趣旨採択：要請書の内容について、その思い、趣旨、勘所は充分理解できるが、事業実現に向けては課題も多く再考が求められ、現時点では、執行部に対し提案は出来ないと判断します